

桜蔭俳話会

第一二七回通信句会 選句結果

平成二十九年秋。選句数は五句、うち特選一句。  
(○内の数字は、特選句数で選句の内数です)

3点①糸瓜忌や母の住処となりし部屋	のり子
4点 秋澄みて根巻はじまる吉野杉	明美
2点②秋の夜や静寂にひたる幸もあり	幸枝
1点 朝顔やこき紫を朝毎見	真三
ジーンズの膝の切れ目やそぞろ寒	ヤエ子
1点①初秋の古き駅舎に雨の音	幸子
10点③ひとりには多き豆煮る夜寒かな	秀一
鈴割りのはじけよ玉の秋の空	ツル子
4点①初紅葉座り直して絵筆かな	才美
富士ではブラックラーメン秋の味	直子
2点 英雄てふヨガに挑めば秋の雷	安紀子
鎌倉や紅葉の山をやぐらまで	友子
3点①音立てて中華大鍋唐辛子	守
夕焼けが川面に映える秋の暮	眞壽
4点①百選の橋の真ん中鰯雲	幸
1点 点滅の歩道走るや秋の暮	かほる
4点①老万歩歩かにやならぬ秋時雨	眞壽
1点 新涼やひとつ灯りてまたひとつ	幸子
5点①姥捨の地名残りし十三夜	守
熟柿のこり鳥と奪い合ふ	ヤエ子
2点 秋うらら切通し抜け海の青	友子
2点①名園の茶屋を見残し秋の暮	真三
2点 曲水に降り立ち給ふ龍田姫	安紀子
2点①夜来の雨上り艶めく式部の実	幸枝
ピチピチやキトキト富山秋の風	直子
2点①螺子回す六角レンチ冷ゆるなり	明美
1点①持ち帰る祀の化粧秋灯	才美
1点 金木屋の星屑に似て散りにけり	のり子
2点 裾分けの実多く入れし栗ごはん	かほる
1点 音も無し奥え奥えと秋を行く	ツル子
2点 仕上げ水たつぷり注ぎ菊手入れ	幸
4点 頬つたふ目薬ぬぐふ朝寒し	秀一
冬の朝瑞宝章に酒を酌む	直子
2点 秋麗や空気の果ての峰高し	のり子
2点①井戸の水桶にたつぷり秋彼岸	幸子

3点 渦をなす川の流れや崖紅葉	ヤエ子
1点 池の輪の進みし鯉や秋夕焼	真三
6点②ハンセンの無実の訴訟茨の実	かほる
5点②海峡の風を掬ひし秋つばめ	守
1点 秋澄みて円空仏の荒い彫り	幸
2点 十三夜家路を急ぐ影ふたつ	友子
文化の日プログラミング子供塾	明美
黒糖のごと椿の実手にうけり	秀一
5点 晩秋やひねもす響く槌の音	幸枝
2点 さざ波の染まる水面の初紅葉	ツル子
4点①窓拭きの散らす秋雲摩天楼	才美
2点 公園や佇む影に秋の風	眞壽
5点 鰯雲旅の仕舞ひの足湯かな	安紀子
4点 ぬま杉の歴史閉じらる秋の暮	幸

「事務局からお知らせ」

○十二月句会

十二月二十四日(日)午後一時から、旭区民文化センター(サンハート)で行います。

○一月句会

一月二十八日(日)午後一時から、旭区民文化センター(サンハート)で行います。

○二月は、句会は休みです。